簿記原理（簿記入門）テキスト

Ⅰ

学校法人田村学園
横浜経理専門学校

簿記原理（簿記入門）

Ⅰ

ー目次ー

Ⅰ．簿記の基礎1

1．簿記とは ------ 1p
2．簿記の目的と財務諸表 ------ 2p
3．簿記の流れと会計期間 ------ 3p
4．簿記の五大要素 ------ 3p
5．財務諸表 ------ 4p
6．財産法と損益法 ------ 6p

Ⅱ．簿記の基礎2

1．取引・仕訳 ------ 8p
2．主要簿（仕訳帳・元帳）・転記 ------ 18p
3．試算表 ------ 31p

Ⅰ．簿記の基礎１

1. 簿記とは

・簿記（Book　Keeping・・・・「帳簿　記入」・・・・略して・・・・簿記）

一定のルール → ノート・記録 → 簿記

（１）簿記とは、ある事実（取引）を一定のルールに基づいて、帳簿（ノート）に継続的・規則的に記録・計算・整理する技術である（**複式簿記システム**）。

簿記 →
- 記録……帳簿（仕訳帳、元帳、補助簿等）に記入する
- 計算……合計・残高を計算する
- 整理……決算時に帳簿を整理する

（２）簿記の種類

①記帳方法による分類

ｉ単 式 簿 記…家計簿のように金銭の収入・支出のみ記録する。

ｉ**複 式 簿 記**…取引を【原因】と【結果】の二面から分析（仕訳）して記録する。

②業種による分類

ｉ**商 業 簿 記**…物品（商品）売買業

ⅱ工 業 簿 記…製造業（原料材を加工し付加価値の高い製品を作る）

ⅲ建設業簿記…ビル・橋・トンネルなどの建設業（工業簿記＋外注費）

ⅳ銀 行 簿 記…金融機関に係る簿記

③注意点

ｉどの簿記も【基本的簿記の原理】は同じである。

ⅱ企業は【営業利益】を追求するのが目的だから〈**複式簿記**〉が最も適している。

（３）複式簿記システムを適用する主体は、一般的に【企業】である。

【企業】
- 個人
- 法人

複式簿記システム

2. 簿記の目的と財務諸表

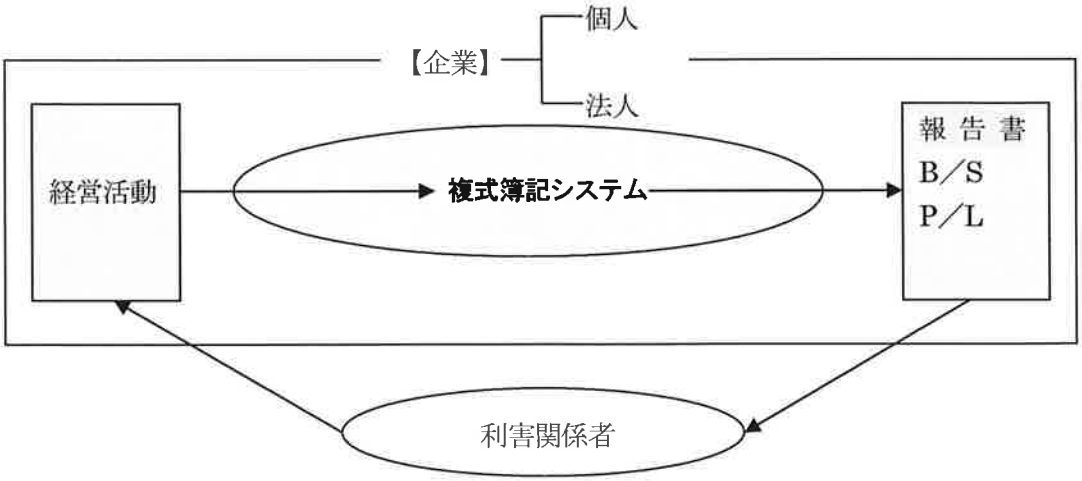
（1）企業の状況をあきらかにした報告書（企業の経営活動の要約表）を**財務諸表**という。
代表的な**財務諸表**は、以下のふたつがある。

①**貸借対照表**（Balance Sheet 「B／S」）… 企業の【財政状態】を明らかにするための報告書
②**損益計算書**（Profit and Loss Statement 「P／L」）… 企業の【経営成績】を明らかにするための報告書

（2）簿記の主な目的は、簿記システムを通じ、企業の状況を財務諸表として作成し、利害関係者に伝達することである。利害関係者が必要とする企業の状況には、以下二つがある。

①企業の【財政状態】を財務諸表により明らかにする。
日々の経営活動を組織的に記録・計算・整理することにより、一定期日（決算時）における【財政状態】が**貸借対照表**（Balance Sheet 「B／S」財務諸表）によって明らかにされる。

②企業の【経営成績】を財務諸表により明らかにする。
日々の経営活動を組織的に記録・計算・整理することにより、一定期間（会計期間）の【経営成績】が**損益計算書**（Profit and Loss Statement 「P／L」財務諸表）によって明らかにされる。

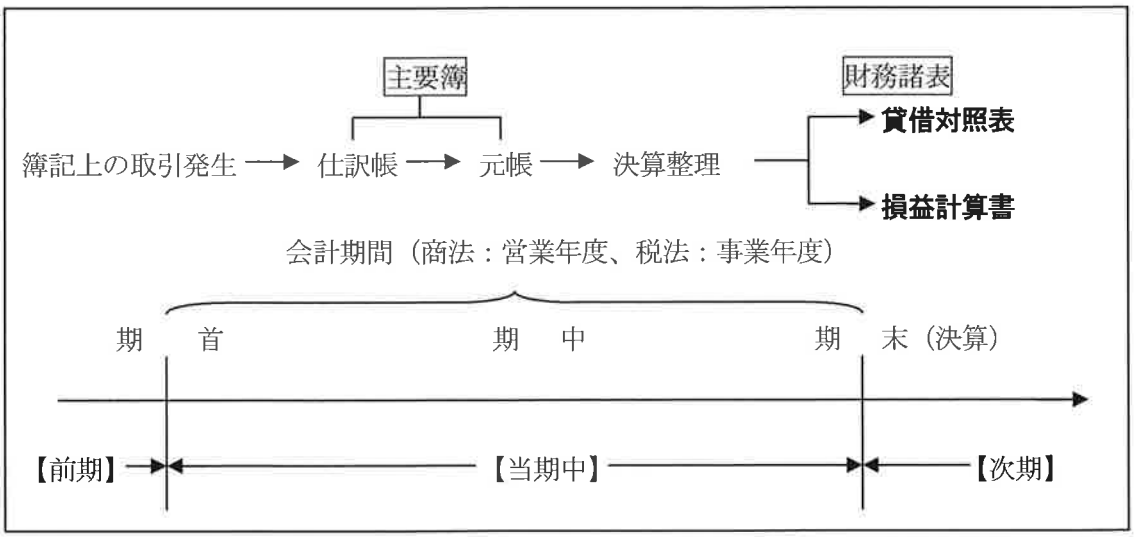


（3）企業をとりまく利害関係者には、出資者・債権者〈銀行・その他〉・国・取引先・消費者などの外部利害関係者、経営者・労働者（従業員）などの内部利害関係者がいる。

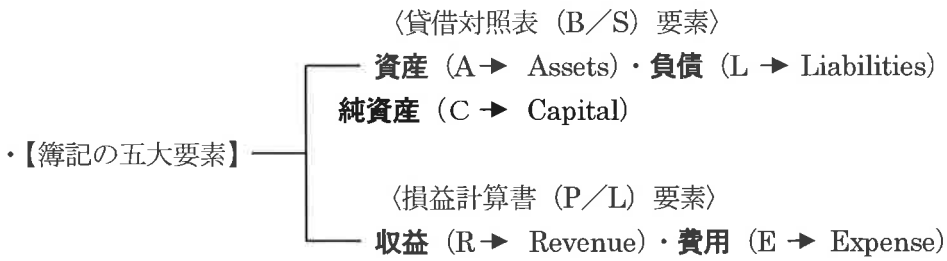
3. 簿記の流れと会計期間

（1）取引の記録から財務諸表【**貸借対照表・損益計算書**】作成までの一連の流れは次ぎのとおりである。

（2）企業の一生は、設立から解散までであるが、企業自体は永続的に存続することを前提として設立している（ゴーイング・コンサーン）。したがって、これを人為的に一定期間に区切って財政状態・経営成績を明かにする必要がある。この人為的に区切られた一定期間を**会計期間**という（通常１年間、期間の初日を期首・末日を期末という）。



4. 簿記の五大要素



（1）貸借対照表（B／S）要素

①**資　産**（A）…… 企業の経営活動に役立つ【財貨】及び【権利】で、貨幣金額で評価できるものを**資産**（A）という。‥**モノ、カネ、権利、**〈資金の運用形態、資金の使途、経済価値を有するもの〉

②**負　債**（L）……　将来の支払い・財産引渡義務（債務）を**負債**（L）という。〈債権者持分、他人資本〉

③**純資産**（C）……　経営活動（事業）に必要な資金を事業主が拠出した金額**【もとで】**及びそれを利用して稼ぎ出した利益を**資本**（C）という。又、資産の総額から負債の総額を差し引いた金額を純財産（自己資本・正味財産）と言うが、これを簿記では**資本**（C）と呼ぶ。

（2）損益計算書（P／L）要素

①**収益**（R）…… 企業の経営活動の成果として資本の増加をもたらす事柄（事実）を**収益**（R）という。

②**費用**（E）…… 企業の成果を得るための努力として資本の減少をもたらす事柄（事実）を**費用**（E）という。

5. 財務諸表（Financial Statements 「F／S」）

（1）前述（**2. 簿記の目的と財務諸表**）とおり、代表的なものに**貸借対照表**（B／S）・**損益計算書**（P／L）がある。

（2）**貸借対照表**（Balance Sheet 「B／S」）

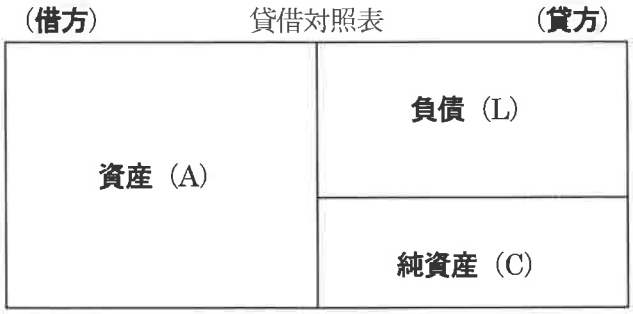
貸借対照表とは「**一定期日**における**財政状態**を明らかにした」財務諸表である。

①**一定期日**……期末（決算日）

②**財政状態**……**資産**（資金の運用・使途）←― **負債・資本**（企業資金の源泉）

釣合

③貸借対照表フォーム



資金運用面　＝　資金調達面

資産（A）＝　**負債**（L）＋**純資産**（C）

貸借対照表等式

必ず左右が一致する

純資産（C）＝　**資産**（A）－**負債**（L）

資本等式

貸借対照表等式の変形式

＊簿記では、左側を（**借方**）、右側を（**貸方**）という

④貸借対照表の正式フォーム（勘定式）

貸借対照表

立木商会　　平成○年 12 月 31 日　　（単位：円）

資　　産	金　　額	負債及び純資産	金　　額
現　　金	１００，０００	買　掛　金	４００，０００
当座預金	３００，０００	借　入　金	３５０，０００
売　掛　金	１２０，０００	未　払　金	２００，０００
貸　付　金	１５０，０００	預　り　金	７０，０００
建　　物	１，２００，０００	資　本　金	１，０００，０００
備　　品	１５０，０００		
	２，０２０，０００		２，０２０，０００

（３）**損益計算書**（Profit and Loss Statement 「P／L」）

損益計算書とは「**一定期間**における**経営成績**を明らかにした」財務諸表である。

①**一定期間**……会計期間（1 年）

②**経営成績**……**収益**（企業成果）⇔　**費用**（企業努力）、との差額（利益）

↓

〈費用・収益の対応〉

⑤損益計算書フォーム

（**借方**）　損益計算書　（**貸方**）

費用（E）	**収益**（R）
当期純利益	

または

（**借方**）　損益計算書　（**貸方**）

費用（E）	**収益**（R）
	当期純損失

収益総額－**費用**総額＝**純損益**（純利益または純損失）

↓

費用総額＋**純損益**（純利益または純損失）＝**収益**総額

損益計算書等式

④損益計算書の正式フォーム（勘定式）

損益計算書

立木商会　　平成○年１月１日～平成○年 12 月 31 日　　（単位:円）

費　　用	金　　額	収　　益	金　　額
仕　　入	１２０，０００	売　　上	２５０，０００
給　　料	５０，０００	受取利息	１８，０００
広告費	４５，０００		
支払家賃	２０，０００		
支払利息	５，０００		
当期純利益	**２８，０００**		
	２６８，０００		２６８，０００

文字・金額ともに赤字で記入

6. 財産法と損益法

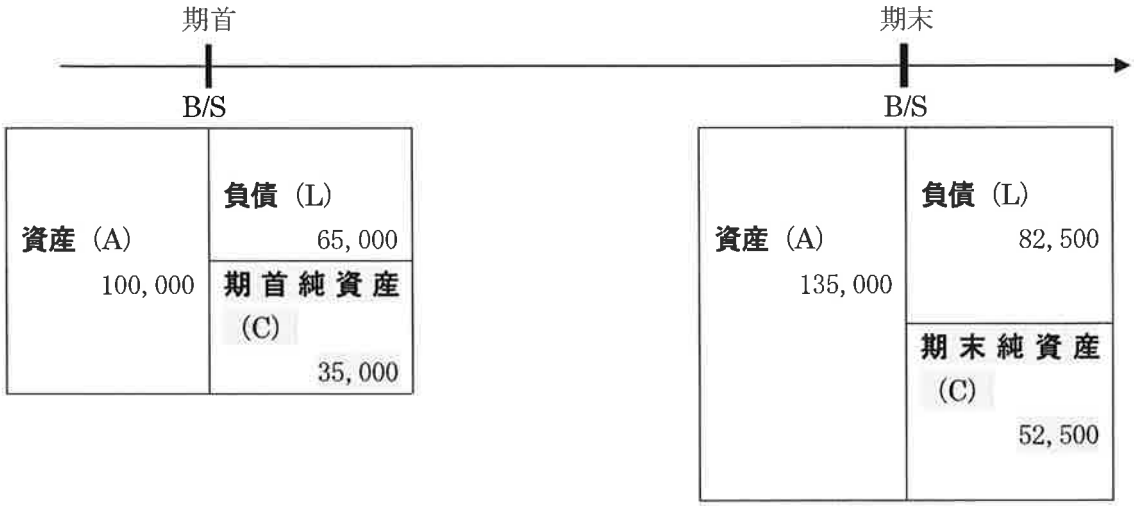
・企業の純損益（純利益または純損失）の計算には以下二つの方法がある。

（１）財産法

財産法とは、期首と期末の純財産（資本）の比較を行い、その増加分を当期純利益また、その減少分を当期純損失とする方法である。

期末純資産－期首純資産＝資本増加分

財産法等式



期末資本 52, 500－**期首資本** 35, 000＝資本増加分（純利益）17, 500

①例題１

次の空欄に金額を記入しなさい。ただし、損失の場合は△を金額の頭に付けなさい。

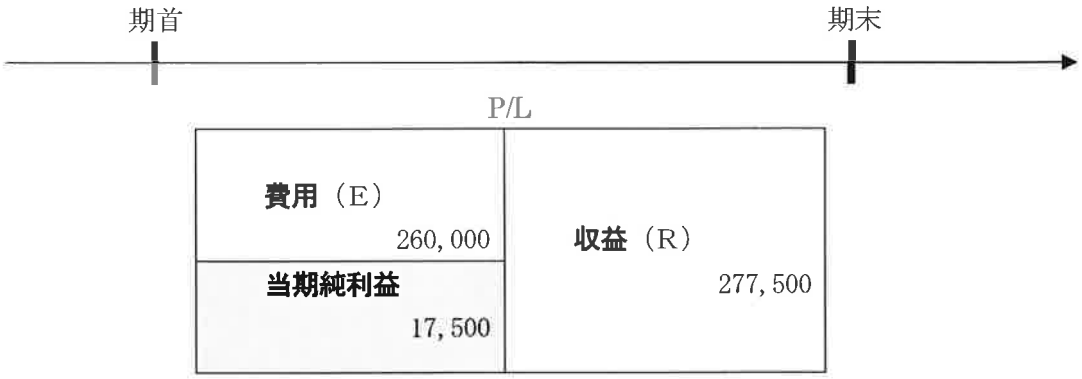
商　店	期首資産	期首負債	期首純資産	期末資産	期末負債	期末純資産	純損益
横　浜	600,000	400,000		760,000	320,000		
東　京	550,000	340,000		850,000	590,000		
川　崎	730,000	560,000		980,000	760,000		
関　内	600,000	0		500,000	350,000		

（２）**損益法**

損益法とは、一会計期間内の資本増加原因となる**収益**総額から、資本減少原因となる**費用**総額を控除して純損益（純利益又は純損失）を計算する方法である。

収益総額－**費用**総額＝**純損益**（純利益または純損失）

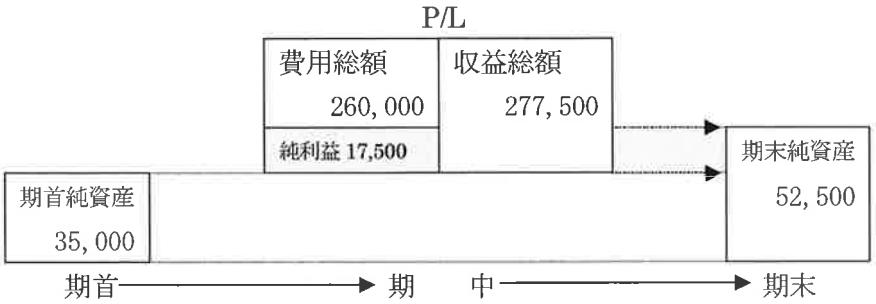
損益法等式



収益総額 277,500－**費用**総額 260,000＝**純損益**（純利益）17,500

（３）損益計算書と貸借対照表の関係

複式簿記（資本の増減と、その増減の原因〈原因と結果〉との二面から分析して記録する）では、損益計算書（損益法）と貸借対照表（財産法）との純損益（純利益または純損失）は、必ず一致する。



①例題２

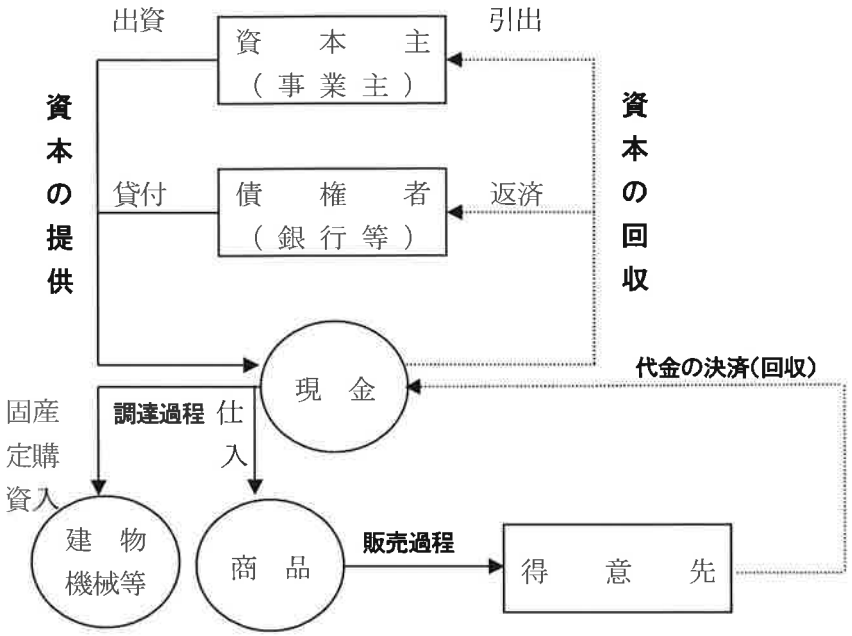
次の空欄に金額を記入しなさい。ただし、損失の場合は△を金額の頭に付けなさい。

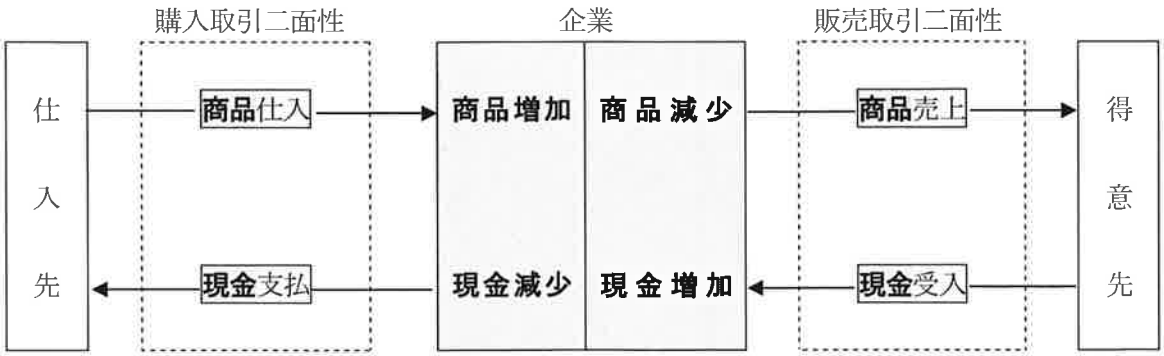
商店	期首			期末			期中		
	資産	負債	純資産	資産	負債	純資産	収益	費用	純損益
野毛	5,600	3,400		6,800		2,900	21,000		700
関内	50,200	35,600		45,300	24,500			18,300	6,200
元町		13,400	22,200		44,600	52,600	274,700		
磯子	35,600	17,400		88,200	12,600		221,700		57,400
本牧		46,400			33,600	63,400	421,700	622,500	

Ⅱ．簿記の基礎2

1．取引・仕訳

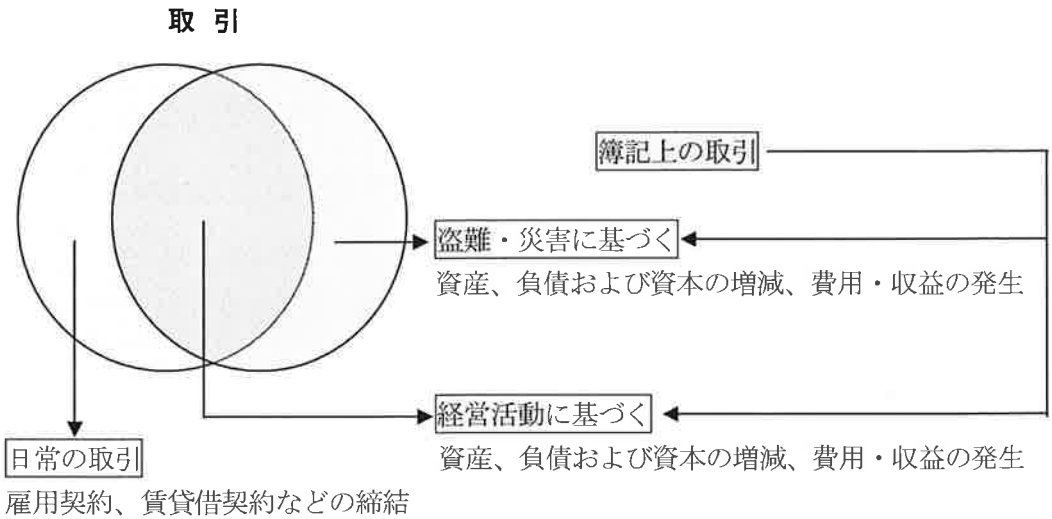
（1）企業活動及び調達・販売過程（下記図）





（2）簿記上の取引

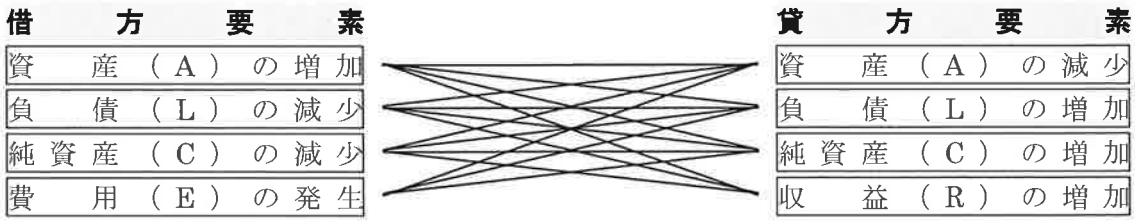
簿記上の取引とは、前項図のような企業活動（経営活動）によって「資産、負債および資本の増減、費用・収益の発生を及ぼす一切の事実をいう（金銭で測定できる）。従って、日常語では取引であっても、簿記上の取引とは必ずしも一致しない。



①簿記上の取引の類型

- 交換取引
  - 財産交替取引…資産と資産の交換・資産と負債の交換、費用・収益が発生しない取引
  - 資本取引…資本の出資・引出など資本の増減を目的とした取引、費用・収益が発生しない取引
- 損益取引…企業活動を通じて、収益又は費用の発生する取引
- 混合取引…交換取引と損益取引とが一つの取引に結合して発生する取引

②取引要素の結合関係（取引の８要素）

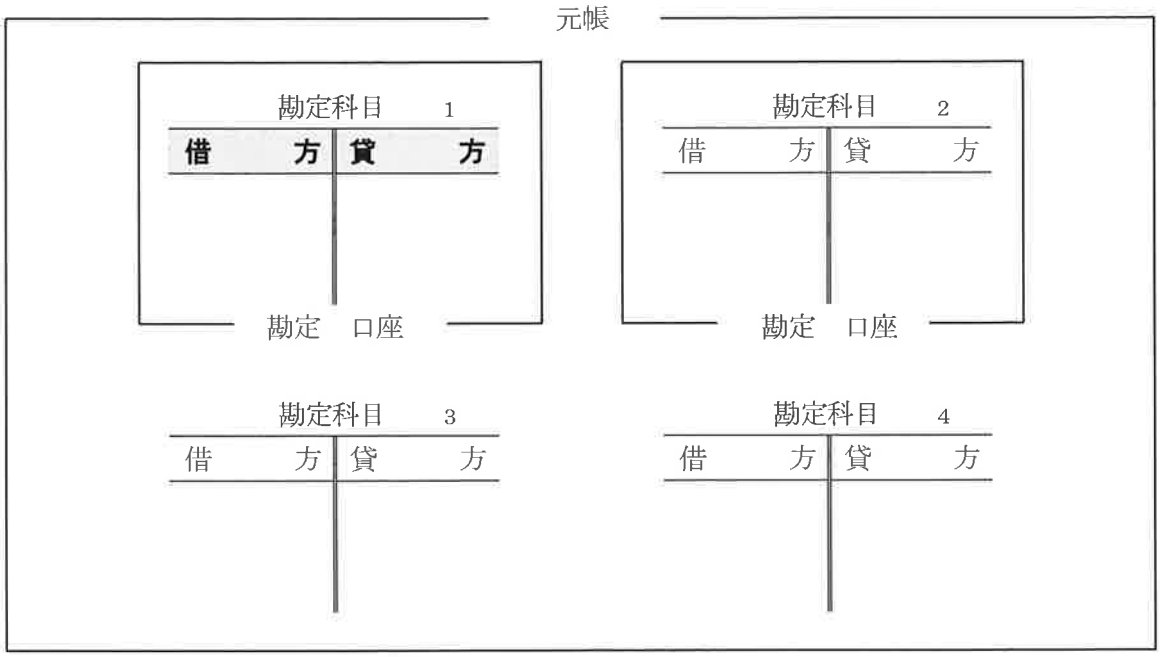


（3）仕訳

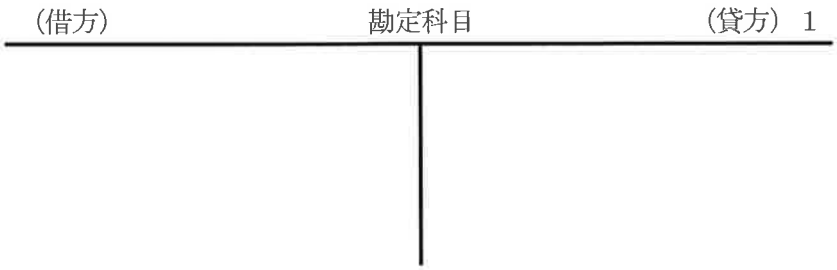
企業の経営活動の中から、簿記上の取引を選び出しこれを分析（**取引の分析**）し、帳簿に簿記上の単語（勘定科目）と金額で記帳する、この一連の作業を仕訳という。

①勘定・勘定科目と元帳

ⅰ勘定科目…勘定の内容を示す名前【仕訳で使用する簿記上の単語】。
ⅱ勘　　定…簿記上の計算単位（集計・計算の場所）、勘定科目が付いて帳簿に設けられる（勘定口座）。
ⅲ元　　帳…勘定口座すべてを収容する帳簿を元帳という。
ⅳ**借　　方**…勘定の左側を、簿記では借方（**かりかた**）と呼ぶ。
ⅴ**貸　　方**…勘定の右側を、簿記では貸方（**かしかた**）と呼ぶ。



T 勘定（フォーム）



②取引の分析→取引の二面性…取引を〔**借方要素**〕と〔**貸方要素**〕の二面から分析し、各金額を決定する。

ⅰ【商品を現金で仕入（購入）した場合】

・商品の仕入（受入）・現金の支払…というように二面的に考える。

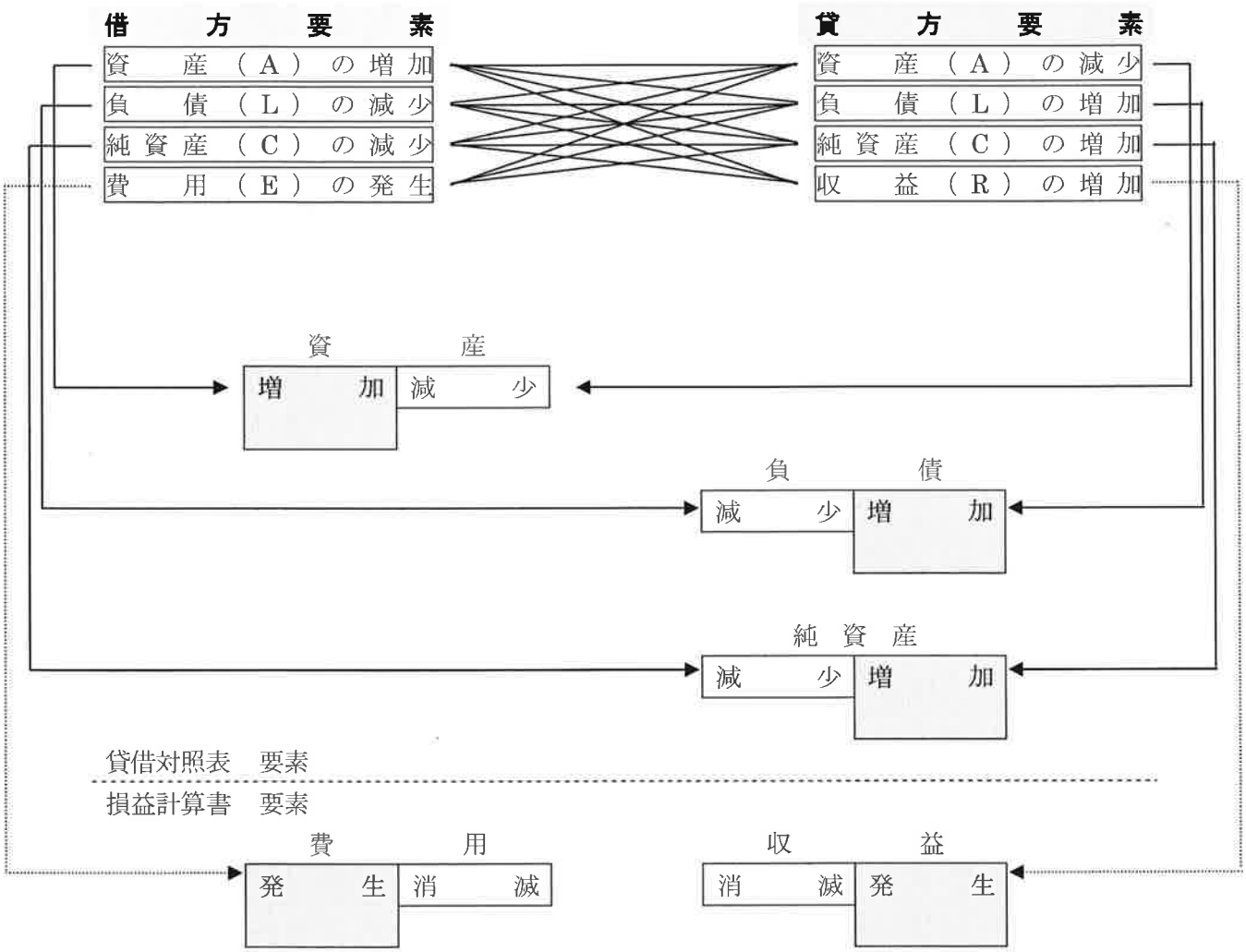
借方要素	**貸方要素**
費用の発生	資産の減少

ⅱ【商品を現金で売り渡した（販売）した場合】

・現金の受入・商品の販売…というように二面的に考える。

借方要素	**貸方要素**
資産の増加	収益の発生

〈仕訳・勘定記入法則〉



〈基本勘定科目分類表〉

貸借対照表項目	
資産(借方)	負債(貸方)
現金	支払手形
小口現金	買掛金
当座預金	未払金
当座(借方残)	預り金
普通預金	前受金
受取手形	仮受金
売掛金	借入金
未収金	当座借越
立替金	当座(貸方残)
前払金	商品券
仮払金	前受収益
貸付金	未払費用
売買目的有価証券	
繰越商品	純資産(貸方)
商品	資本金
消耗品	
他店商品券	
前払費用	
未収収益	
建物	
備品	
機械装置	
車両	
土地	

損益計算書項目	
費用(借方)	収益(貸方)
仕入(売上原価)	売上
給料	受取家賃
消耗品費	受取地代
支払家賃	受取手数料
支払地代	受取利息
旅費交通費	受取配当金
租税公課	有価証券利息
通信費	有価証券売却益
水道光熱費	有価証券評価益
支払運賃	雑益(雑収入)
発送費	固定資産売却益
広告費	貸倒引当金戻入
保険料	償却債権取立益
減価償却費	
貸倒引当金繰入	
支払手数料	
雑費	
貸倒損失	
支払利息	
手形売却損	
有価証券売却損	
有価証券評価損	
雑損(失)	
固定資産売却損	

その他の勘定科目	
借方	貸方
現金過不足	現金過不足
引出金	貸倒引当金
	減価償却累計額

③仕訳の手順

ⅰ簿記上の取引であるかの判定…事例は、基本的に簿記上の取引を前提に書かれている。

↓

ⅱ**勘　定　科　目　の　決　定**…前項の**〈基本勘定科目分類表〉**を参照。

↓

ⅲ**取　　引　　の　分　　析**…前項の**〈仕訳・勘定記入法則〉**を参照し各（借方・貸方）取引要素を決定する。

↓

ⅳ**金　　額　　の　決　　定**…証憑書類などで測定する。

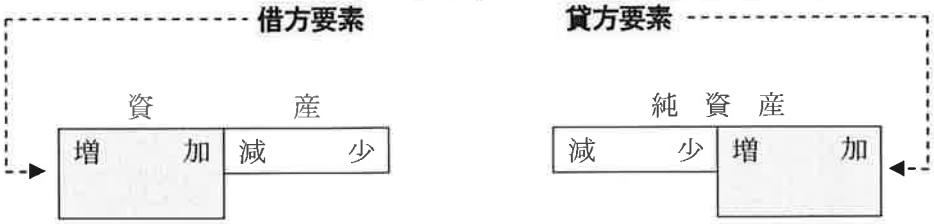
〈取引事例①〉

4月1日　現金￥500，000を元入れ（出資）し、事業を開始した。

ⅱ**勘定科目の決定**…現金→「現金」、元入れ（出資）→「資本金」

↓　　↓

ⅲ**取 引 の 分 析**…「現金」→資産の増加、「資本金」→純資産の増加



ⅳ**金 額 の 決 定**…￥500，000

取引の分解

「現金」資産￥500，000の増加 ⟺ 「資本金」資本￥500，000の増加

仕訳

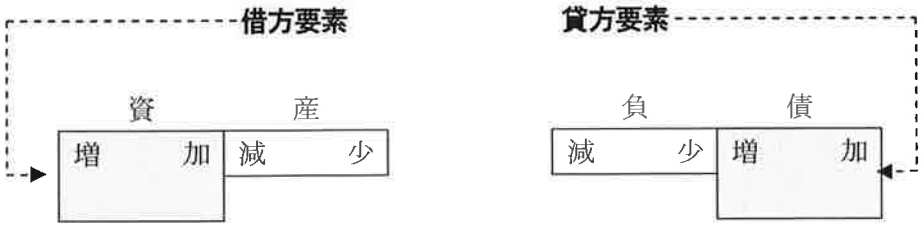
（借方科目）	（　金　額　）	（貸方科目）	（　金　額　）
現　　金	500，000	資　本　金	500，000

4月3日　自己資金不足の為、金融機関から￥400, 000、友人から￥100, 000の融資を受けた。

ⅱ**勘定科目の決定**…現金→「現金」、融資を受ける→「借入金」

↓　　↓

ⅲ**取 引 の 分 析**…「現金」→資産の増加、「借入金」→負債の増加



ⅳ**金 額 の 決 定**…￥500, 000

取引の分解

「現金」資産￥500, 000の増加 ⟺ 「借入金」負債￥500, 000の増加

仕訳

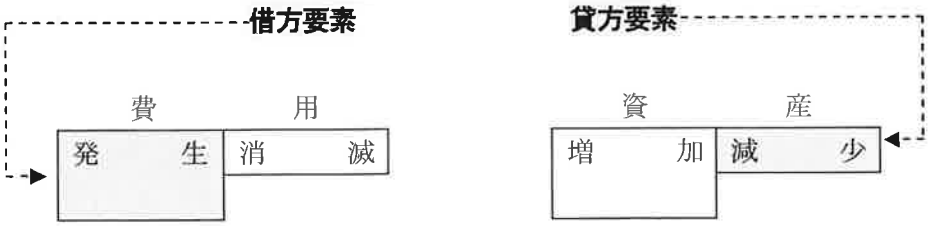
（借方科目）	（　金　額　）	（貸方科目）	（　金　額　）
現　金	500, 000	借　入　金	500, 000

4月4日　商品￥50, 000（@￥250、200個）を、現金で購入（仕入）した。

ⅱ**勘定科目の決定**…商品購入→「仕入」、現金→「現金」

↓　　↓

ⅲ**取 引 の 分 析**…「仕入」→費用の発生、「現金」→資産の減少



ⅳ**金 額 の 決 定**…￥50, 000

取引の分解

「仕入」資用￥50, 000の発生 ⟺ 「現金」資産￥50, 000の減少

仕訳

（借方科目）	（　金　額　）	（貸方科目）	（　金　額　）
仕　入	50, 000	現　金	50. 000

（4）

①例題３

次の文章のうち、簿記上の取引となるものには○を、ならないものには×を(　)に記入しなさい。

・(　) 商品￥50, 000を購入し、代金は翌月払いとした。
・(　) 開業するために、店舗兼事務所を１ヶ月￥150, 000の賃料で、借受ける賃貸借契約を締結した。
・(　) 店舗兼事務所を１ヶ月￥150, 000の賃料で、借受ける賃貸借契約を締結し手附金￥30, 000を現金で支払った。
・(　) レジをしめるため現金残高を調べてみたら、￥5, 545の不足を発見した。
・(　) 新人従業員として、Ａさんと月給185, 000で雇用契約を締結した。
・(　) 火災で、自己所有の店舗を焼失した。
・(　) 商品￥1, 500を万引きされた。

②例題４

次の各取引を例にならって分解しなさい。

例　現金￥500, 000を元入れして営業を開始した。
「現金」（資産）￥500, 000の増加⟺「資本金」（純資産）￥500, 000の増加

商品陳列ケース￥300, 000を現金で購入した。
「　　」(　　)￥300, 000の　　⟺「　　」(　　)￥300, 000の　　

商品￥150, 000を購入（仕入）し、代金は現金で支払った。
「　　」(　　)￥150, 000の　　⟺「　　」(　　)￥150, 000の　　

友人から利息後払いの約束で、事業資金として￥500, 000の融資を受けた。
「　　」(　　)￥500, 000の　　⟺「　　」(　　)￥500, 000の　　

商品を￥250, 000で販売し、代金は掛けとした。
「　　」(　　)￥250, 000の　　⟺「　　」(　　)￥250, 000の　　

コピー用紙￥5, 000を購入し、代金は現金で支払った。
「　　」(　　)￥5, 000の　　⟺「　　」(　　)￥5, 000の　　

パソコン用デスク５台@￥15, 000を購入し、代金は翌月末に支払うことにした。
「　　」(　　)￥　　の　　⟺「　　」(　　)￥　　の　　

従業員の給料￥185, 000を現金で支払った。
「　　」（　　）￥185, 000の　　⟺「　　」（　　）￥185, 000の　　

火災保険料￥32, 000を現金で支払った。
「　　」（　　）￥32, 000の　　⟺「　　」（　　）￥32, 000の　　

③例題５
次の仕訳をしなさい。

１）現金￥1, 000, 000を元入れして営業を開始した。
２）事業資金として銀行より￥600, 000の融資を受けた。
３）商品￥300, 000を購入し、代金は現金で支払った。
４）商品を￥150, 000で販売し、代金は現金で受け取った。
５）従業員の給料￥220, 000を現金で支払った。

解答欄

No.	借　方　科　目	金　　額	貸　方　科　目	金　　額
1)				
2)				
3)				
4)				
5)				

④例題６
次の（　　方）の中に、“**借**”または“**貸**”のどちらかを記入し、勘定記入法則上正しい文章にしなさい。

１）純資産の増加は（　　方）に記入する。２）資産の増加は（　　方）に記入する。
３）費用の発生は（　　方）に記入する。　４）収益の発生は（　　方）に記入する。
５）資産の減少は（　　方）に記入する。　６）負債の減少は（　　方）に記入する。
７）純資産の減少は（　　方）に記入する。８）負債の増加は（　　方）に記入する。
９）収益の消滅は（　　方）に記入する。　10）費用の消滅は（　　方）に記入する。

⑤例題７

次の仕訳をしなさい。

４月１日　現金￥1, 000, 000と車両￥800, 000を元入れして営業を開始した。
２日　事業資金として銀行より￥500, 000の融資を受けた。
３日　商品￥300, 000を購入し、代金は現金で支払った。
５日　商品陳列ケース（中古）を￥200, 000で購入し、代金は現金で支払った。
６日　事務用品（ボールペン、帳簿、コピー用紙など）￥5, 000を現金払いで購入した。
７日　商品を￥150, 000で販売し、代金は現金で受け取った。
13 日　商品￥300, 000を購入し、代金は￥50, 000現金で支払い、残額は掛けとした。
18 日　商品を￥200, 000で販売し、代金のうち￥50, 000は現金で受け取り、残額は掛けとした。
20 日　従業員の給料￥220, 000を現金で支払った。
25 日　買掛代金￥50, 000を現金で支払った。
26 日　電話代￥15, 000、切手代￥10, 000を現金で支払った。
27 日　買掛代金￥50, 000を現金で支払った。

解答欄

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1				
2				
3				
5				
6				
7				
13				
18				
20				
25				
26				
27				

2. 主要簿(仕訳帳・元帳)・転記

・すべての取引仕訳を、取引発生順（日付順）に記入する会計帳簿を仕訳帳という。

（1）仕訳帳の記帳ルール

①取引日順（日付順）に仕訳・記帳する。(月は、ページの最初の取引のみでよい、取引日が同じときは、「〃」で処理する。)
②仕訳の勘定科目、取引概要（小書き）を摘要欄に記入する。
③金額欄に取引金額を記入する。
④仕訳帳の右上の数字はページ数を意味する。

〈仕訳と記入例〉①
4月1日現金￥500, 000を元入れして営業を開始した。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	500, 000	資本金	500, 000

仕訳帳　1

日	付	摘要	元丁	借方	貸方
4	1	（現金）	1	500, 000	
		（資本金）	2		500, 000
		現金元入れして開業			

①取引日
②勘定科目、取引概要（小書き）の記入
＊勘定科目には必ずカッコ( )をつけ、借方から記入する。
③取引金額を記入
＊1行1科目・1金額
④仕訳帳のページ数
仕訳を勘定元帳に転記した際に、その勘定口座のページ数・口座番号を記入する。**次節にて説明**

⑤勘定科目の数が2つ以上になるときは、勘定科目の上に「**諸口**」と記入、摘要欄の勘定科目は、勘定科目の数によって異なる。
⑥1ページごとに縦集計し「**次ページ繰越**」と記入する、次ページでは「**前ページ繰越**」と1行目に記入する。

〈仕訳と記入例〉

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/19	仕入	150,000	現金	50,000
			買掛金	100,000
20	現金	100,000	売上	300,000
	売掛金	200,000		
22	備品	150,000	現金	35,000
	消耗品費	5,000	未払金	120,000

仕訳帳　2

日	付	摘要	元丁	借方	貸方
4	18	前ページ繰越		4,500,000	4,500,000
	19	（仕入）　諸口		150,000	
		（現金）			50,000
		（買掛金）			100,000
		関内商会より甲商品仕入			
	20	諸口　（売上）			300,000
		（現金）		100,000	
		（売掛金）		200,000	
		元町商店へ甲商品販売			
	22	諸口　諸口			
		（備品）		150,000	
		（消耗品費）		5,000	
		（現金）			35,000
		（未払金）			120,000
		パソコンと事務用品を購入			
		次ページ繰越		5,105,000	5,105,000

⑤摘要欄の勘定科目は、原則**借方**から記入（**科目数が貸借同数の場合**）、科目数が貸借アンバランスな場合は、**数が少ない方**から記入する。科目数が２つ以上の場合は必ず科目の上に**諸口**と記入する（カッコ不要）。

⑥縦集計し「**次ページ繰越**」と記入、次ページでは「**前ページ繰越**」と記入

① 例題７を仕訳帳記入した場合

４月１日　現金￥1, 000, 000と車両￥800, 000を元入れして営業を開始した。
２日　事業資金として銀行より￥500, 000の融資を受けた。
３日　商品￥300, 000を購入し、代金は現金で支払った。
５日　商品陳列ケース（中古）を￥200, 000で購入し、代金は現金で支払った。
６日　事務用品（ボールペン、帳簿、コピー用紙など）￥5, 000を現金払いで購入した。
７日　商品を￥150, 000で販売し、代金は現金で受け取った。
13 日　商品￥300, 000を購入し、代金は￥50, 000現金で支払い、残額は掛けとした。
18 日　商品を￥200, 000で販売し、代金のうち￥50, 000は現金で受け取り、残額は掛けとした。
20 日　従業員の給料￥220, 000を現金で支払った。
25 日　買掛代金￥50, 000を現金で支払った。
26 日　電話代￥15, 000、切手代￥10, 000を現金で支払った。
27 日　買掛代金￥50, 000を現金で支払った。

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4/1	現金	1, 000, 000	資本金	1, 800, 000
	車両運搬具	800, 000		
2	現金	500, 000	借入金	500, 000
3	仕入	300, 000	買掛金	300, 000
5	備品	200, 000	現金	200, 000
6	事務用消耗品	5, 000	現金	5, 000
7	現金	150, 000	売上	150, 000
13	仕入	300, 000	現金	50, 000
			買掛金	250, 000
18	現金	50, 000	売上	200, 000
	売掛金	150, 000		
20	給料	220, 000	現金	220, 000
25	買掛金	50, 000	現金	50, 000
26	通信費	25, 000	現金	25, 000
27	買掛金	50, 000	現金	50, 000

仕訳帳　　1

日付	摘要	元丁	借方	貸方

②例題８

現金の４月 27 日現在の残高を計算しなさい。

４月 27 日現在の現金残高は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿円である。

③解答　例題８

４月 27 日現在の現金残高は　1, 100, 000　円である。

日	付	摘　　要	元丁	借　　方	貸　　方
4	1	諸　　口　　（資　本　金）			1, 800, 000
		（現　　金）		1, 000, 000	
		（車両運搬具）		800, 000	
		元入れ営業開始			
	2	（現　　金）		500, 000	
		（借　入　金）			500, 000
		横浜銀行より借入			
	3	（仕　　入）		300, 000	
		（買　掛　金）			300, 000
	5	（備　　品）		200, 000	
		（現　　金）			200, 000
	6	（事務用消耗品）		5, 000	
		（現　　金）			5, 000
	7	（現　　金）		150, 000	
		（売　　上）			150, 000
	13	（仕　　入）　諸　　口		300, 000	
		（現　　金）			50, 000
		（買　掛　金）			250, 000
	18	諸　　口　　（売　　上）			200, 000
		（現　　金）		50, 000	
		（売　掛　金）		150, 000	
	20	（給　　料）		220, 000	
		（現　　金）			220, 000
	25	（買　掛　金）		50, 000	
		（現　　金）			50, 000
	26	（通　信　費）		25, 000	
		（現　　金）			25, 000
	27	（買　掛　金）		50, 000	
		（現　　金）			50, 000
		次ページ繰越		3, 800, 000	3, 800, 000

＊　現金のみの、借方・貸方集計額　　1, 700, 000　　600, 000

1, 700, 000－600, 000＝1, 100, 000（4 月 27 日現在の現金残高）

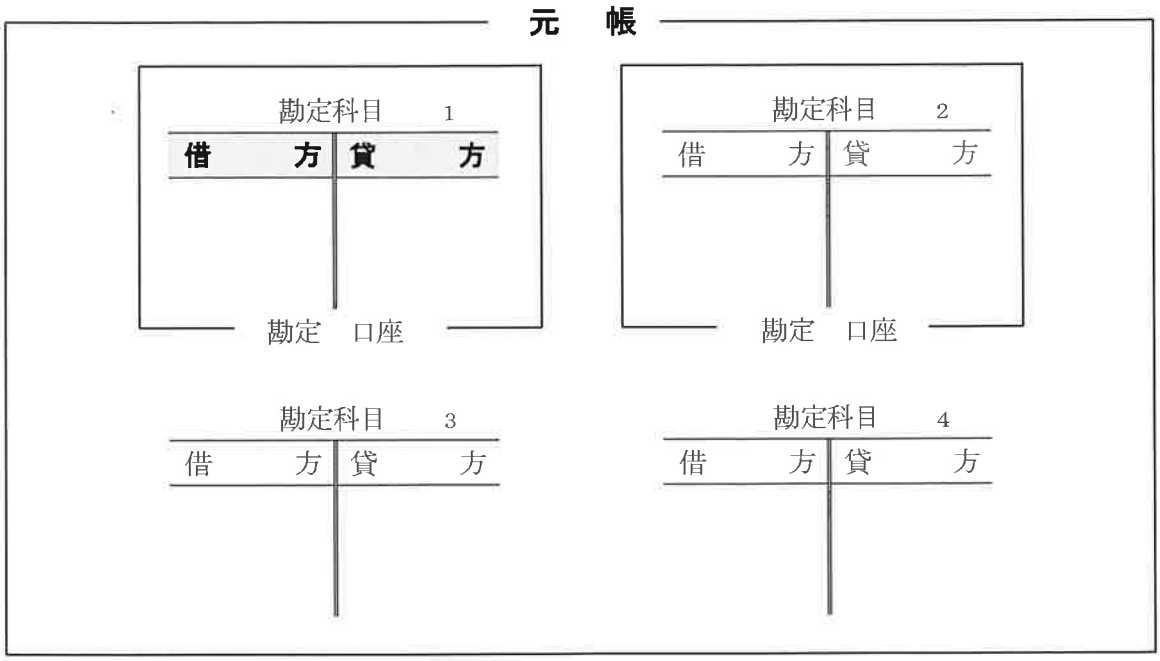
（2）元帳（総勘定元帳）

①勘定・勘定科目と元帳

ⅰ勘定科目…勘定の内容を示す名前【仕訳で使用する簿記上の単語】。

ⅱ勘　　定…簿記上の計算単位（集計・計算の場所）、勘定科目が付いて帳簿に設けられる（勘定口座・勘定科目別ノート）。

ⅲ元　　帳…勘定口座すべてを収容する帳簿を元帳という（総勘定元帳）。



（3）総勘定元帳のフォーム

・総勘定元帳には、①標準式と②残高式の二つがある。

①標準式

現　　金　　1

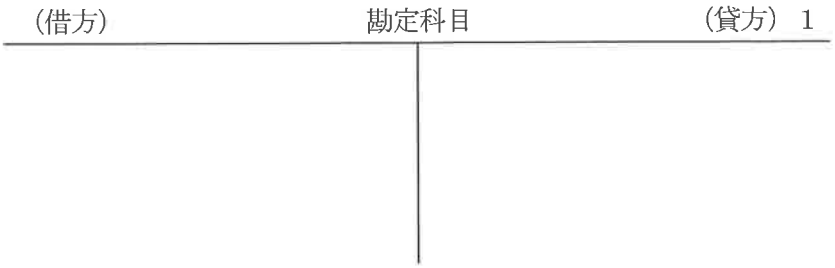
日付		摘要	仕丁	借方金額	日付		摘要	仕丁	貸方金額

②残高式

現　　金　　1

日付		摘要	仕丁	借方金額	貸方金額	借・貸	残高

③T 勘定(フォーム)…標準式を簡略化したもの



（4）転記のルール

①総勘定元帳には、仕訳帳より取引日順に以下の三つを転記する（借方・貸方)。

ⅰ日　　付…取引日
ⅱ金　　額…仕訳金額
ⅲ相手科目…仕訳において反対側に記入された科目

仕訳（4月1日）

(借方科目)	(　金　額　)	(貸方科目)	(　金　額　)
現　金	500, 000	**資　本　金**	500, 000

相手科目は**資本金**　　相手科目は**現金**

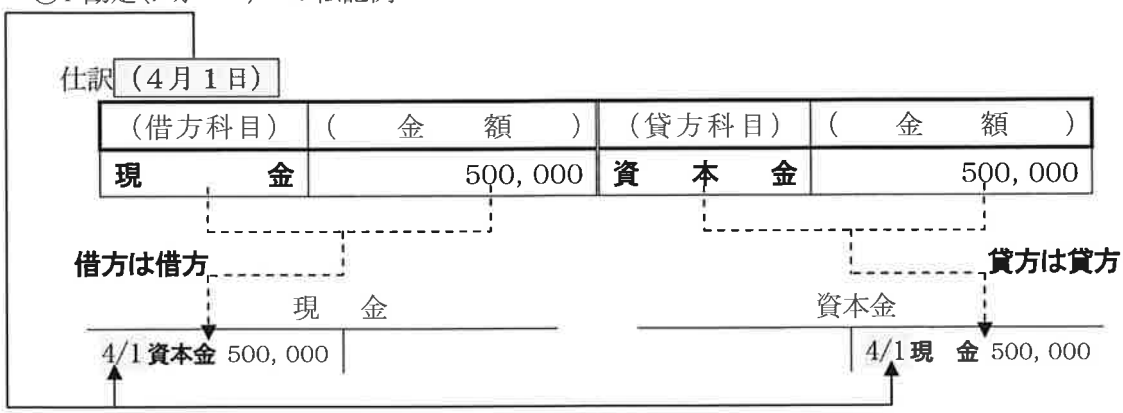
相手科目が複数の場合は、相手科目の代わりに**諸口**と記入する。

仕訳（4月1日）

(借方科目)	(　金　額　)	(貸方科目)	(　金　額　)
現　金	500, 000	**資　本　金**	1, 000, 000
車両運搬具	500, 000		

相手科目は**諸口**

②T 勘定(フォーム)への転記例



仕訳（4月1日）

（借方科目）	（　金　額　）	（貸方科目）	（　金　額　）
現　　金	500, 000	**資　本　金**	1, 000, 000
車両運搬具	500, 000		

現　　金

4/1 **資本金** 500, 000	

資本金

	4/1 **諸　口** 500, 000

車両運搬具

4/1 **資本金** 500, 000	

③仕訳帳から標準式元帳への転記例

仕　訳　帳　1

日	付	摘　　要	元丁	借　方	貸　方
4	1	（　現　金　）	1	500, 000	
		（資　本　金）	5		500, 000

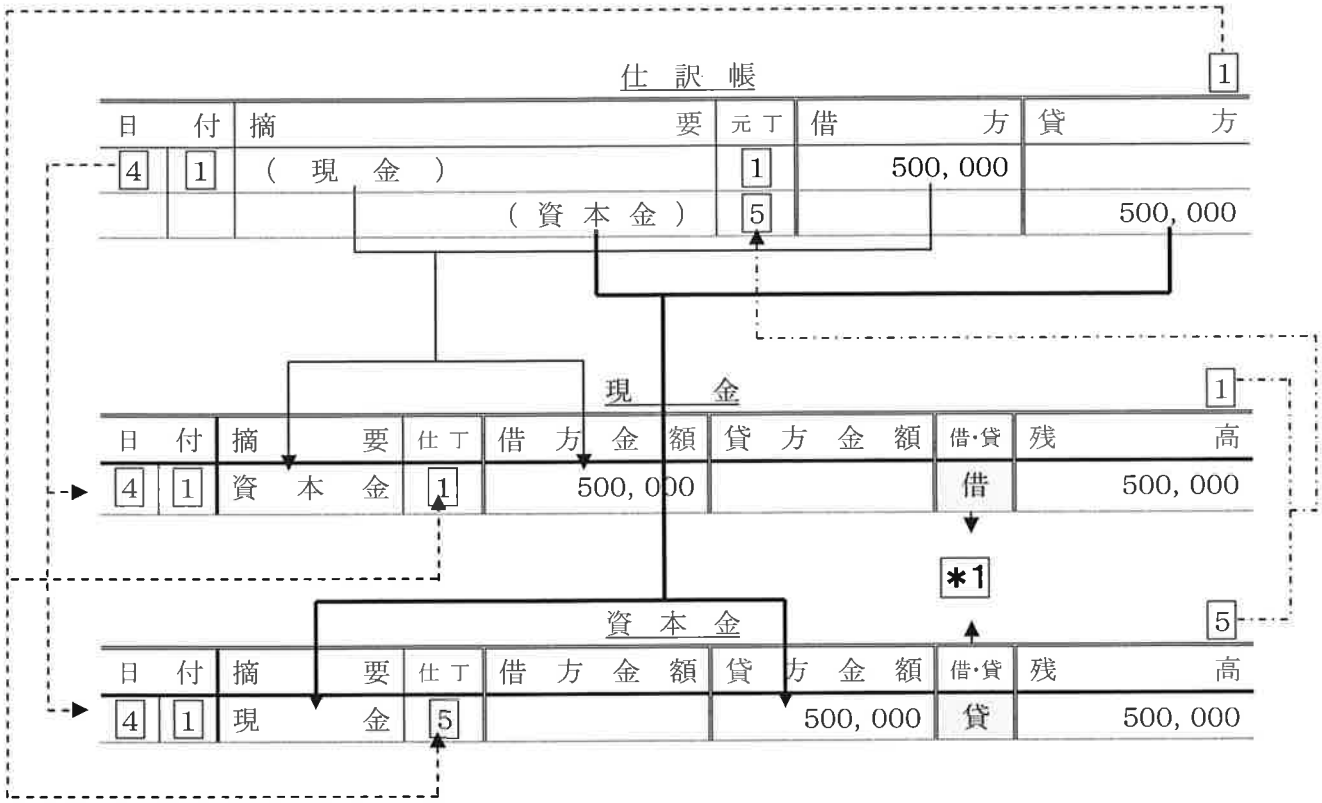
現　　金　1

日	付	摘　要	仕丁	借方金額	日	付	摘　要	仕丁	貸方金額
4	1	資　本　金	1	500, 000					

資　本　金　5

日	付	摘　要	仕丁	借方金額	日	付	摘　要	仕丁	貸方金額
					4	1	現　金	1	500, 000

④仕訳帳から残高式元帳への転記例



*1 残高が借方なのか、貸方なのかを記入

残高欄　残高を記入

日付欄 ------→ 仕訳帳の日付欄の取引日を記入
摘要欄 ═══→ 相手科目を記入
仕丁欄 ------→ 仕訳帳のページ数を記入
金額欄 ═══→ 仕訳帳の借方・貸方金額を記入
元丁欄 -·-·-→ 元帳勘定の口座番号を記入

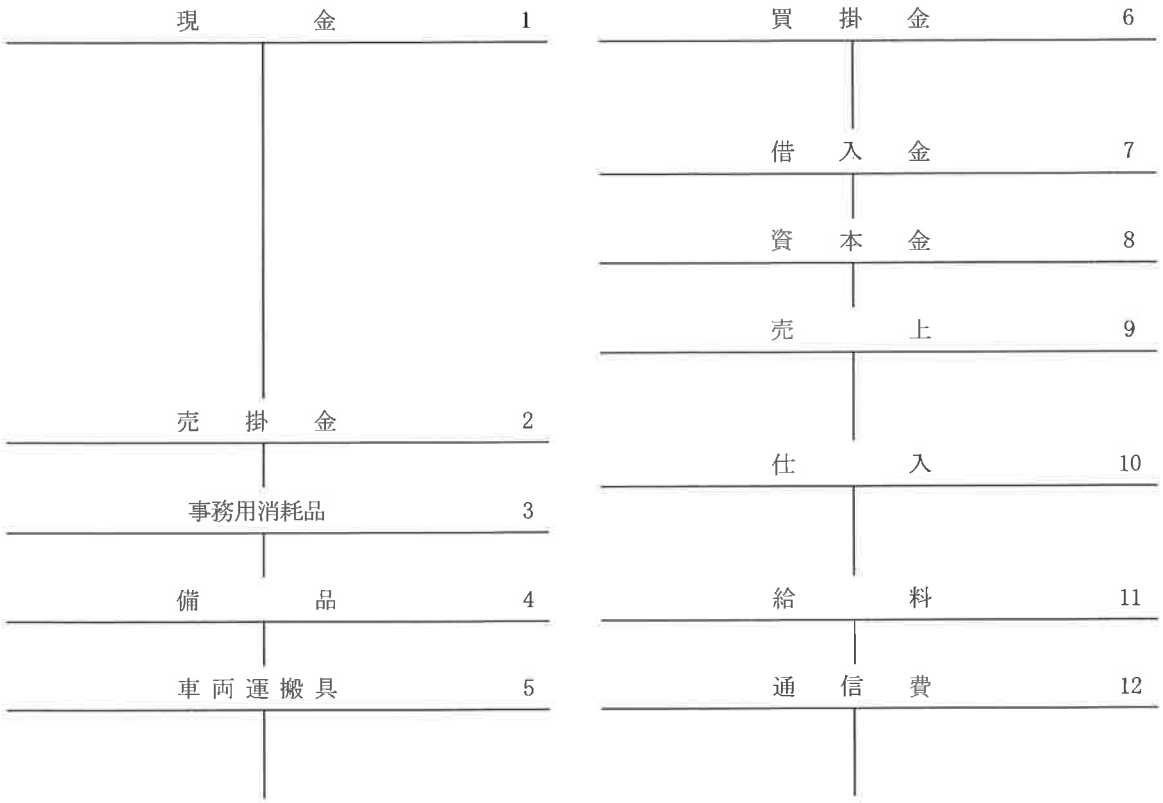
} 標準式・残高式共通

⑤例題９

例題７の仕訳帳をＴ勘定（Ｔフォーム）に転記しなさい。

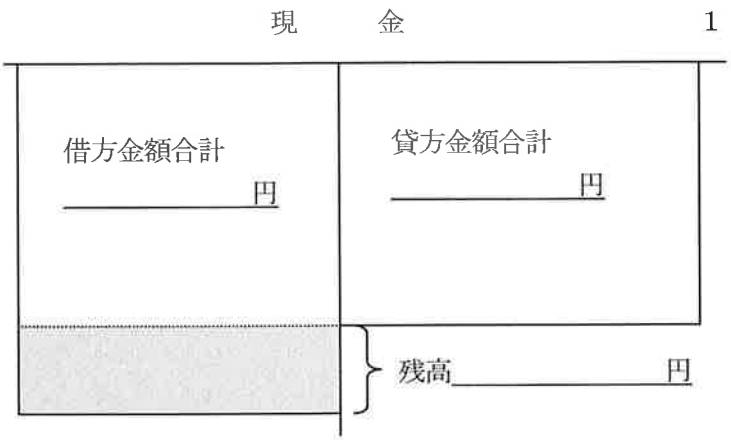
仕訳帳　　1

日	付	摘　　要	元丁	借　　方	貸　　方
4	1	諸　　口　　（資　本　金）			1, 800, 000
		（現　　金）		1, 000, 000	
		（車両運搬具）		800, 000	
		元入れ営業開始			
	2	（現　　金）		500, 000	
		（借　入　金）			500, 000
		横浜銀行より借入			
	3	（仕　　入）		300, 000	
		（買　掛　金）			300, 000
	5	（備　　品）		200, 000	
		（現　　金）			200, 000
	6	（事務用消耗品）		5, 000	
		（現　　金）			5, 000
	7	（現　　金）		150, 000	
		（売　　上）			150, 000
	13	（仕　　入）　諸　　口		300, 000	
		（現　　金）			50, 000
		（買　掛　金）			250, 000
	18	諸　　口　　（売　　上）			200, 000
		（現　　金）		50, 000	
		（売　掛　金）		150, 000	
	20	（給　　料）		220, 000	
		（現　　金）			220, 000
	25	（買　掛　金）		50, 000	
		（現　　金）			50, 000
	26	（通　信　費）		25, 000	
		（現　　金）			25, 000
	27	（買　掛　金）		50, 000	
		（現　　金）			50, 000
		次ページ繰越		3, 800, 000	3, 800, 000



⑥例題１０

例題８で計算した現金残高を現金勘定で確認しなさい。



解答　　例題９

仕訳帳

日	付	摘　　要	元丁	借　　方	貸　　方
4	1	諸　　口　　（資　本　金）	8		1, 800, 000
		（現　　金）	1	1, 000, 000	
		（車両運搬具）	5	800, 000	
		元入れ営業開始			
	2	（現　　金）	1	500, 000	
		（借　入　金）	7		500, 000
		横浜銀行より借入			
	3	（仕　　入）	9	300, 000	
		（買　掛　金）	6		300, 000
	5	（備　　品）	4	200, 000	
		（現　　金）	1		200, 000
	6	（事務用消耗品）	3	5, 000	
		（現　　金）	1		5, 000
	7	（現　　金）	1	150, 000	
		（売　　上）	12		150, 000
	13	（仕　　入）　諸　　口	9	300, 000	
		（現　　金）	1		50, 000
		（買　掛　金）	6		250, 000
	18	諸　　口　　（売　　上）	12		200, 000
		（現　　金）	1	50, 000	
		（売　掛　金）	2	150, 000	
	20	（給　　料）	10	220, 000	
		（現　　金）	1		220, 000
	25	（買　掛　金）	6	50, 000	
		（現　　金）	1		50, 000
	26	（通　信　費）	11	25, 000	
		（現　　金）	1		25, 000
	27	（買　掛　金）	6	50, 000	
		（現　　金）	1		50, 000
		次ページ繰越		3, 800, 000	3, 800, 000

現金			1				
4/1	資本金	1,000,000		4/5	備品	200,000	
2	借入金	500,000		6	事務用消耗品	5,000	
7	売上	150,000		13	仕入	50,000	
18	売上	50,000		20	給料	220,000	
				25	買掛金	50,000	
				26	通信費	25,000	
				27	買掛金	50,000	

売掛金			2				
4/1	売上	150,000					
8							

事務用消耗品			3				
4/6	現金	5,000					

備品			4				
4/5	現金	200,000					

車両運搬具			5				
4/1	資本金	800,000					

買掛金			6				
4/25	現金	50,000		4/3	仕入	300,000	
27	現金	50,000		13	仕入	250,000	

借入金			7				
				4/2	現金	500,000	

資本金			8				
				4/1	諸口	1,800,000	

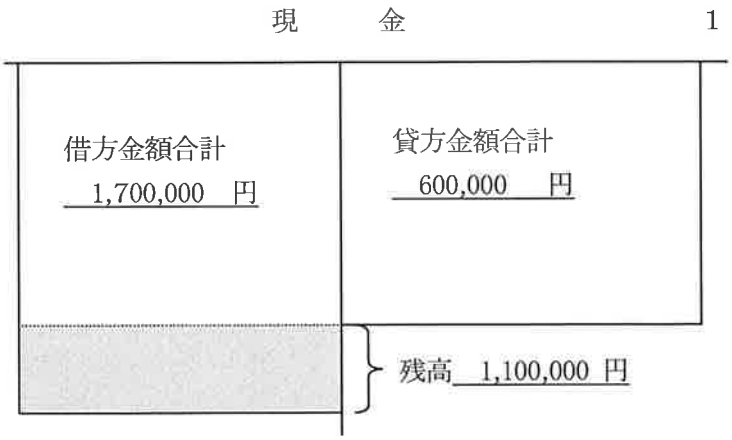
売上			9				
				4/7	現金	150,000	
				18	諸口	200,000	

仕入			10				
4/3	買掛金	300,000					
13	諸口	300,000					

給料			11				
4/20	現金	220,000					

通信費			12				
4/26	現金	25,000					

解答　　例題１０



3. 試算表(Trial Balance:T／B)

（1）試算表とは

仕訳帳には、すべての取引を仕訳法則にしたがって借方・貸方金額が常に一致するような仕訳記入が行われ、その記入内容を各勘定に転記するのであるから、元帳の勘定記録の集計額も、やはり借方・貸方金額は一致する（貸借平均の原理）。これを利用し、元帳の各勘定へ正確に転記されているかを確認する目的で作成される集計表を、試算表という。

（2）試算表の種類

①合 計 試 算 表…元帳の各勘定借方合計・貸方合計を一覧表にした試算表（転記の正確性を検証、仕訳帳合計額との照合による取引の元帳記録の正確性を検証）

②残 高 試 算 表…元帳の各勘定残高を一覧表にした試算表（財務諸表の基礎）

③合計残高試算表…①合計試算表と②残高試算表とを一表にまとめたもの

（3）各試算表のフォーム

仕　訳　帳

（現　金）	1,000,000	（資本金）	1,000,000
（仕　入）	400,000	（現　金）	400,000
（現　金）	300,000	（売　上）	600,000
（売掛金）	300,000		
（現　金）	150,000	（売掛金）	150,000
合　計	2,150,000	合　計	2,150,000

元　帳

現　金

資本金	1,000,000	仕　入	400,000
売　上	300,000		
売掛金	150,000		

売掛金

売　上	300,000	現　金	150,000

資本金

		現　金	1,000,000

売　上

		諸　口	600,000

仕　入

現　金	400,000		

①合計試算表

合計試算表

平成○年△月×日現在

借方合計	勘定科目	貸方合計
1, 450, 000	現金	400, 000
300, 000	売掛金	150, 000
	資本金	1, 000, 000
	売上	600, 000
400, 000	仕入	
2, 150, 000		2, 150, 000

仕訳帳の合計と一致する

②残高試算表

残高試算表

平成○年△月×日現在

借方残高	勘定科目	貸方残高
1, 050, 000	現金	
150, 000	売掛金	
	資本金	1, 000, 000
	売上	600, 000
400, 000	仕入	
1, 600, 000		1, 600, 000

③合計残高試算表

合計残高試算表

平成○年△月×日現在

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
1, 050, 000	1, 450, 000	現金	400, 000	
150, 000	300, 000	売掛金	150, 000	
		資本金	1, 000, 000	1, 000, 000
		売上	600, 0000	600, 000
400, 000	400, 000	仕入		
1, 600, 000	2, 150, 000		2, 150, 000	1, 600, 000

④例題１１　以下の勘定口座に基づいて各試算表を作成しなさい。

現金			1				
4/1	資本金	1,000,000	4/5	備品	200,000
2	借入金	500,000	6	事務用消耗品	5,000
7	売上	150,000	13	仕入	50,000
18	売上	50,000	20	給料	220,000
			25	買掛金	50,000
			26	通信費	25,000
			27	買掛金	50,000

売掛金			2
4/1	売上	150,000	
8			

事務用消耗品			3
4/6	現金	5,000	

備品			4
4/5	現金	200,000	

車両運搬具			5
4/1	資本金	800,000	

買掛金			6				
4/25	現金	50,000	4/3	仕入	300,000
27	現金	50,000	13	仕入	250,000

借入金			7
		4/2	現金	500,000

資本金			8
		4/1	諸口	1,800,000

売上			9
		4/7	現金	150,000
		18	諸口	200,000

仕入			10
4/3	買掛金	300,000	
13	諸口	300,000	

給料			11
4/20	現金	220,000	

通信費			12
4/26	現金	25,000	

ｉ合計試算表

合　計　試　算　表

借方合計	元丁	勘定科目	貸方合計

ii 残高試算表

残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高

iii 合計残高試算表

合計残高試算表

借方残高	借方合計	元丁	勘定科目	貸方合計	貸方残高

解答　例題１１

ｉ合計試算表

合　計　試　算　表

借方合計	元丁	勘定科目	貸方合計
1, 700, 000	1	現金	600, 000
150, 000	2	売掛金	
5, 000	3	事務用消耗品	
200, 000	4	備品	
800, 000	5	車両運搬具	
100, 000	6	買掛金	550, 000
	7	借入金	500, 000
	8	資本金	1, 800, 000
	9	売上	350, 000
600, 000	10	仕入	
220, 000	11	給料	
25, 000	12	通信費	
3, 800, 000			3, 800, 000

ii残高試算表

残高試算表

借方残高	元丁	勘定科目	貸方残高
1, 100, 000	1	現金	
150, 000	2	売掛金	
5, 000	3	事務用消耗品	
200, 000	4	備品	
800, 000	5	車両運搬具	
	6	買掛金	450, 000
	7	借入金	500, 000
	8	資本金	1, 800, 000
	9	売上	350, 000
600, 000	10	仕入	
220, 000	11	給料	
25, 000	12	通信費	
3, 100, 000			3, 100, 000

iii 合計残高試算表

合計残高試算表

借方残高	借方合計	元丁	勘定科目	貸方合計	貸方残高
1, 100, 000	1, 700, 000	1	現金	600, 000	
150, 000	150, 000	2	売掛金		
5, 000	5, 000	3	事務用消耗品		
200, 000	200, 000	4	備品		
800, 000	800, 000	5	車両運搬具		
	100, 000	6	買掛金	550, 000	450, 000
		7	借入金	500, 000	500, 000
		8	資本金	1, 800, 000	1, 800, 000
		9	売上	350, 000	350, 000
600, 000	600, 000	10	仕入		
220, 000	220, 000	11	給料		
25, 000	25, 000	12	通信費		
3, 100, 000	3, 800, 000			3, 800, 000	3, 100, 000

学校法人田村学園
横浜経理専門学校
事　業　開　発　部
著編：立木　克久
電話：０４５－４５３－５５００
http://www.tamura.ac.jp